

2019_0626~0628 日本睡眠学会第44回定期学術集会

睡眠のスペシャリストから見たSAS診療における現状と課題

LS2

睡眠のスペシャリストから見たSAS診療における現状と課題

○白濱 龍太郎¹、○山田 洋太²、○吉嶺 裕之³、○武藤 真祐¹

¹RESM新横浜 睡眠・呼吸メディカルケアクリニック、²株式会社iCARE、³社会医療法人春回会井上病院、

¹株式会社インテグリティ・ヘルスケア

近年、睡眠時無呼吸症候群（SAS）が交通事故をはじめとする労働災害や各種生活習慣病のリスクとなることが注目されており、SAS検診を含めた健康投資をする企業が増えている。しかしながら、眠気の自覚がないSAS患者も多く、問診票だけによる検診では見逃される可能性も高い。このため、スクリーニング検査の適切な実施や、企業検診から医療機関での診断・治療に至るシームレスな流れとこれに向けた企業・産業医・医療機関間の連携の構築が重要である。

推定500万人といわれるSAS潜在患者の内、治療中の患者が未だ50万人程度という現状を鑑みた場合、安全向上・健康増進の両面からこの連携の重要性とその実現に向けた具体的な取り組みについて考える必要がある。

本講演ではクリニック、病院、企業の立場から4名の医師が現状の取り組みを紹介し、その中で浮き彫りになった課題と対応策についてディスカッションする。